

米づくり情報 (NO. 5)

令和6年7月25日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7	1	24.8	27.6	28.4	30.4	22.0	25.5	97.6	98.5	15.6	15.6
	2	25.5	29.0	29.2	32.6	22.6	27.0	84.3	12.0	19.2	26.9
	3	26.1	24.7	30.0	28.3	23.1	22.6	59.0	137.5	23.5	4.4
	4	26.7	28.7	30.9	32.5	23.5	25.9	42.4	10.0	28.3	29.9
	5	27.2	-	31.6	-	23.9	-	39.1	-	32.3	-
	6	27.6	-	32.1	-	24.2	-	44.3	-	41.4	-

【7月1半旬～7月4半旬の気象概況】

- ・気温は、平年よりやや高い。
- ・降水量は、周期的な雨に見舞われたものの、平年比91%やや少ない。
- ・7/22に梅雨明けした(福岡管区気象台)。

2 生育状況 (7月24日)

項目 品種(設置場所)	移植 日	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 東山代町脇野	5/23	本年値 88.1 平年比(差) 89	78.4 88.1 89	252 381 66	11.6 12.2 (-0.6)	37.7 33.9 (-3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より低い ・莖数は、平年より少ない ・葉齢は、やや少ない ・葉色は、平年より淡い
ヒノヒカリ 松浦町桃川	6/20	本年値 57.0 平年比(差) 105	59.8 57.0 105	471 475 99	9.0 10.7 (-1.7)	42.2 42.5 (-0.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年並 ・莖数は、平年並 ・葉齢は、平年よりやや少ない ・葉色は平年よりやや淡い

(耕種概要)

- ・夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリの耕種概要は稲作情報 No.4 を参照。

【情報田ウンカ類調査結果 (25株あたり)】 (調査日7月23日、24日)

品種	地域	移植日	トビイロ ウンカ (成虫)	セジロ ウンカ (成虫)	ヒメトビ ウンカ (成虫)	ウンカ類 (幼虫)
夢しずく	東山代	5/23	0	0	0	0
ヒノヒカリ	松浦	6/20	0	0	0	4

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（7月23日）

平坦部(佐賀県農業試験研究センター)

本年産水稻の生育状況（7月23日）

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
	品種	年 次					
6月18日	夢しずく	本 年	65.6	335	10.5	40.7	[気象] 7月16日～22日まで ◆平均気温…平年より1.8℃高い ◆日照時間…長い(平年比126%) ◆降水量…少ない(平年比20%) [生育] ◆草丈 全ての品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で 少なく、「ヒヨクモチ」でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」で 平年並み、「ヒノヒカリ」はやや多い。 ◆葉色 「夢しずく」はやや濃い、「ヒノヒカリ」は 濃い、「さがびより」「ヒヨクモチ」で 平年並み。
		平 年	59.4	410	10.4	39.1	
		平年比(差)	110	82	+0.1	+1.6	
	ヒノヒカリ	本 年	60.2	480	10.8	43.7	
		平 年	53.7	560	10.5	41.1	
		平年比(差)	112	86	+0.3	+2.6	
6月20日	さがびより	本 年	57.2	418	10.3	41.6	
		平 年	49.7	502	10.4	41.2	
		平年比(差)	115	83	-0.1	+0.4	
	ヒヨクモチ	本 年	52.1	842	10.9	43.2	
		平 年	47.7	816	11.0	42.9	
		平年比(差)	109	103	-0.1	+0.3	
留意点	○ 7月17日以降晴天が続き、日照時間が長くなったものの、草丈は各品種とも伸長(15cm程度)した。「夢しずく」で分けつの発生が鈍化したが、「ヒヨクモチ」は二次分けつの発生が盛んで、平年並みの茎数が確保されている。 ○ 「夢しずく」の中干しは、茎数が少ない圃場が多いと思われるため、極端に強い中干しとはせず、幼穂形成期(農試平年7/28)までに中干しを終える。 ○ 有効茎が確保された「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」等の中晩生品種は、速やかに中干しを実施する。						

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・ 穂ばらみ期～出穂期となっている。
- ・ 最も用水量が必要な時期であるため、出穂10日後までは間断灌水の湛水期間を長めにとる。出穂開花期頃の干ばつは、不稔籾の増加の原因となるため、用水確保が重要となる。
- ・ 用水確保が難しい地域は、出穂後1～3日、出穂後10日～15日、できれば糊熟期（粒を押しつぶすと粘り気の強い糊状となる時期）に重点的に走水を行い、被害の軽減に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

・幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参考に穂肥診断を実施し、適切に穂肥を施用する。（参考：6月4日移植圃場で、幼穂長約 5 mm ※7月24日時点）

《夢しずく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10 a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・有効茎（茎数が 1 株 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・ガスわき対策として移植後 15 日、25 日頃は夜干し等を行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では、落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・梅雨明けし、高温と乾燥が予想される。深い亀裂が入り、土壌が白乾するほどの強い中干しは、断根につながるため、中干しの強度は、軽く足跡がつく程度の黒乾燥状態を保つ程度とする。（用水の確保が難しい地域は、自然落水とし、水尻は完全に落とさないようにする。）
- ・移植後の大雨等でオーバーフローにより除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場で、雑草の発生が見られる場合は、速やかに中後期除草剤による防除を実施する。

4) 共通

(スクミリンゴガイ)

- ・佐賀県農業技術防除センターの病害虫発生予察情報（5月29日付け）では、6月のスクミリンゴガイの予想発生量は「多」になっており、6月5日に「スクミリンゴガイの注意報」が発出され、管内でも多数の被害が見られる。
- ・スクミリンゴガイの被害が見られる圃場では、浅水管理（水深 4 cm、理想は 1 cm）を行い、貝の食害活動を抑制する。
- ・薬剤散布を行う際は、圃場の発生状況に応じて、水深が深く被害が多い場所では局所的な散布・額縁散布を行う。散布後は、効果の持続のため、3~4 日間は湛水状態を保つ。
- ・薬剤散布後、1 週間を目安に効果の確認を行い、必要に応じて追加防除を実施する。

(いもち病)

・7月に入り好天が続いているため、感染好適条件は発生していないが、常発地帯では引き続き注意して圃場を観察する。

BLASTAM情報第7号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2024年7月25日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	?	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	2	—	2	—	—	—	2	2	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—
	17日	3	3	—	●	3	—	—	3	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
- 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
- 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
- 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
- ：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
- ：好適条件の出現なし
- ？：判定不能

BLASTAMの活用方法

- (1) BLASTAMは、気象条件(アメダスデータ)のみによって葉いもちの発生を予測するシステムである。しかしながら、実際の圃場における葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少(密度)、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件などが大きく関与している。したがって、BLASTAMは、あくまでも葉いもち発生予察の参考資料の一つとして扱う。
- (2) BLASTAMは、葉いもちを対象としており、稲の移植約20日後を起点とした35日間(6月15日移植の場合、7月5日～8月10日)が適用期間とされている。ただし箱施肥が行われた圃場では、その持続期間中はBLASTAMは使用できない。
- (3) 葉いもちは、菌の侵入から発病までの潜伏期間が約1週間である。そのため、BLASTAMによる感染(準感染)好適条件が現れた場合、感染株では約1週間後から初発生あるいは病斑数の急激な増加が予想できる。
- (4) BLASTAMによる感染(準感染)好適条件の出現回数が多いと、その地域の葉いもちの発生面積が増加し、発病程度も著しくなることが予想できる。

(ウンカ類)

例年と比較して飛来量が多い。今後の発生状況に注意が必要。

海外飛来性害虫情報第7号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (令和6年7月25日更新)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県			長崎県				
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB		
6月	19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0							0	0
	20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0							0	0
	21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	欠測	0	0	1	4	0
	22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0							0	0
	23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1							10	0
	24日	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2							18	0
	25日	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0	0	0	3	0	0	3	25	3
	26日	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0							16	0
	27日	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0							7	1
	28日	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0	0	0	5	0	0	1	2	0
	29日	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0							1	0
	30日	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0							2	0
7月	1日	0	229	0	0	0	14	88	0	1	0							2	3
	2日	0	41	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	3	0		1	4	2
	3日	1	欠測	0	0	0	1	欠測	0	0	0							2	2
	4日	0	5	0	0	0	0	3	0	0	0							2	0
	5日	0	0	0	0	0	5	9	0	1	0							2	0
	6日	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0		1	2	1
	7日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0							1	0
	8日	0	1	0	0	0	2	1	2	0	0							0	0
	9日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	欠測	0	2	0
	10日	0	2	0	0	0	1	252	1	2	0							0	1
	11日	0		0	0	0	1		106	0	0							0	0
	12日	0		0	0	0	0		33	0	0							1	1
	13日	0	3	0	0	0	0	933	232	0	0	0	0	0	0	欠測	13	0	0
	14日	0		0	1	0	0		70	0	0							0	0
	15日	0		0	0	0	0		17	0	0							1	1
	16日	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	6	2	0	0							0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	35	1	1	0							0	0
	19日	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0							0	0
	20日	0	0	0	0	0	4	9	3	0	0	0	0	4	0	3	3	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0							0	0
	22日	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0							0	0

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

7月11~15日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により5日間の合算値。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。



図1 トビロウカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)



図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

早期移植防除適期・・・7/16~22、8/14~20
 普通期移植防除適期・・・7/25~28、8/22~27

農業技術防除センター提供

- 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し（ウンカは稲の株元に定着します）。発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウカ	白っぽい	灰白の斑紋	:真横
トビロウカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	:真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	:斜め後ろ

		トビロウカ	セジロウカ	ヒメトビウカ
幼虫	若齢			
	中齢～老齢			
成虫		長翅雌 短翅雌		雌 雄

農業技術防除センター提供

令和6年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業振興センター

